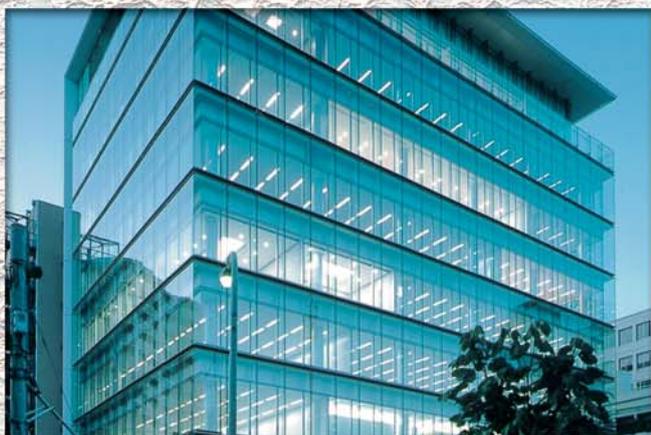


千葉県建築文化賞

第15回表彰作品集

千葉県建築文化賞創設15周年記念特集



2008年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 暁子

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設され、今年度で15回目の節目の年を迎えました。その間、多くの優秀な建築物の中から、累計で建築文化賞76点、建築文化奨励賞45点が選定され、千葉県の良好な街づくりに貢献しています。

千葉県建築文化賞が創設の意義を深めながら年々発展を遂げてまいりましたのも、多くの県民をはじめ、建築関係者、歴代の選考委員や関係団体の皆様のおかげであり、あらためて深く感謝申し上げます。

今年度は、57点の多彩な作品の応募の中から、建築文化賞5点及び建築文化奨励賞1点が選定されました。

地域住民が中心となって維持・保存に取り組んでいる歴史的町並み、街づくりの起点となるエレガントなオフィス建築、海沿いの自然の中で快適さを感じさせる学校宿舍、施設全体が訓練の場という考えに基づいた使いやすいリハビリテーション病院、環境負荷の低減を図るとともに先導的建築物となることを目指した会館、いずれも建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

関係の皆様的情熱と新しい発想が込められたこれらの建築物が、地域社会の中に溶け込み、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献するものと期待しております。

優れた建築物は、人々にうるおい、やすらぎを与える美しい街並みを実現するとともに、観光など地域の活性化に貢献する社会の共有財産です。また、高齢者や障害者など誰もが利用しやすい建築物、環境への負荷軽減を図った建築物の普及促進が課題となっている現在、高齢者、障害者や環境などに配慮した優れた建築物は、生活文化の新しいモデルとなり得るものです。

今後とも、県といたしましては、うるおいを持ち、誰もが安心して快適に暮らすことができる街づくりを610万県民の皆様とともに推進してまいりますので、皆様の御支援、御協力をお願いいたします。

結びに、選考委員をはじめ、関係団体の方々の御協力に感謝申し上げますとともに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈りしまして、あいさついたします。

平成21年3月

1

目次

千葉県建築文化賞について	1	君津駅南口トイレ	8
第15回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2		
香取市佐原歴史的景観形成地区	3	千葉県建築文化賞創設15周年記念特集	
開成学園那古宿舍	4	千葉県建築文化賞の15年	9
竹中工務店東関東支店	5	千葉県建築文化賞過去表彰作品の紹介	10
船橋市立リハビリテーション病院	6	千葉県建築文化賞の実績 (応募点数・受賞作品数)一覧	17
千葉県自治会館	7		

第15回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募57点から6点入賞

(選考経過)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第15回千葉県建築文化賞は平成20年7月の委員会で募集要領を定め、8月から9月中旬まで応募を受け付け、総数57点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より4点増加し、2年連続の減少にひとまずの歯止めがかかった。また、今回は中小規模の作品を中心に佳品が目立った。経済情勢が急速に厳しさを増すなかにあつて、質の高い作品を生み出す関係者の熱意が、千葉県における建築文化を守り育てていくことを期待したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門5点、ユニバーサルデザイン部門2点、環境部門4点を選んだ。次いで11月上・中旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観に配慮した建築物		40	5	3	—
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		4	2	1	1
環境に配慮した建築物		13	4	1	—
合計		57	11	5	1

(総評)

景観に配慮した建築物

景観部門では、今回から従来の対象に加えて、継続活動によって景観の維持・向上を実現している建築物群を応募対象とした。応募40点の内、新規の対象に該当する応募は1点であり、選考にあたっては両者を区別せず、魅力ある景観形成と地域の景観向上への寄与の観点から総合的に評価した。その結果、次の3点を建築文化賞に選定した。

「香取市佐原歴史的景観形成地区」は、地域住民が中心となって町並み保存に取り組んできた地区であり、既存建物の保存修復とそれらに合わせた新築を組み合わせ、連続した町並み景観が形成されている。

「開成学園那古宿舎」は、海岸の松林のなかに建てられた宿泊施設であり、2階外壁を板張りとし、水平性を強調したデザインがすっきりまとめられており、敷地外周のよしず塀とも相まって周辺の景観・自然環境とみごとに調和している。

「竹中工務店東関東支店」は、縦ルーバーを用いた端正なファサードが形成途上の市街地の景観を引き締め、ローコストで地方都市の景観形成に寄与する小規模オフィス建築のプロトタイプを提示している。

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

この部門への応募は4点であり、昨年よりさらに2点減少した。近年では、本部門以外の応募作品にもユニバーサルデザインへの配慮が浸透しており、喜ばしいかぎりであるが、本部門自体への応募の少なさはやはり残念である。

建築文化賞の「船橋市立リハビリテーション病院」は、病床200床の大規模な施設だが、病院全体を訓練の場とするコンセプトに基づき、患者エリアの隅々まで車椅子利用や介助者同伴の行動を前提として計画している。敷地外周の庭や遊歩道も、建物内部と一体にきめ細かく配慮されている。

奨励賞の「君津駅南口トイレ」は、やや雑然とした駅前広場にあつて、昼夜を問わず明るく誰もが利用しやすい多目的な場を提供している。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は13点であり、数は昨年並みだが、今回は公共施設や住宅のみでなく、幅広い用途の建築物において環境への興味深い配慮が見られた。

建築文化賞の「千葉県自治会館」は、開閉ダンパー付ダブルスキンの外壁に自動制御式電動ブラインド、自動調光システムなどを組み合わせることにより、同規模一般施設に比べて30%程度のエネルギー削減を見込んでいる。官庁・業務街の交差点に建つ透明感の高いデザインも高く評価された。